

■北潟湖自然再生協議会 設立総会

[議事録]

日 時：平成 30 年 11 月 24 日（土）11：00～12：00

場 所：芦原青年の家 1 階 体育館

出席者：【関係者】

青海 忠久（北潟湖の自然再生に関する協議会 会長）、組頭 五十夫（北潟湖の自然再生に関する協議会 副会長）、奥村 充司（福井高専 准教授）、水口 亜樹（福井県立大学 准教授）、毛利 純雄（あわら市議会議員）、仁佐 一三（あわら市議会議員）、見澤 啓子（北潟東区 女性代表）、佐孝 百合子（北潟西区 女性代表）、福田 健（市民一般公募枠）、斉藤 貞幸（市民一般公募枠）、佐々木 真二郎（福井県自然環境課 課長）、松村 俊幸（福井県自然保護センター 所長）、石井 潤（福井県里山里海湖研究所）、片山 博之（福井県自然環境課 参事）、西垣 正男（県安全環境部自然環境課 主任）、佐野 沙樹（福井県自然環境課主事）、松永 浩美（福井県安全環境部環境政策課 主任）、山田 康次（福井県三国土木事務所管理用地課 課長）、鉾崎 有紀（福井県水産課）、梅田 佑樹（福井県土木部河川課 主事）、保月 勇志（福井県衛生環境研究センター 主事）、松崎 雅之（福井県内水面総合センター 水産研究指導監）、吉田 太一（あわら市議会議員）、山口 志代治（あわら市議会議員）、山川 知一郎（あわら市議会議員）、糠見 敏（あわら市教育委員会 部長）、岡田 昌章（あわら市文化学習課長）、江守 耕一（あわら市総務課長）、大代 典子（あわら市子育て支援課長）、大代 紀夫（あわら市教育長）、北川 凌大（あわら市観光商工課主事）、青池 和哉（若狭町歴史文化課 縄文環境室長）、河田 勝治（あわらの自然を愛する会 会長）、浅田 能成（あわら市エコ市民会議）、藤井 和代（あわら市エコ市民会議）、水口 勝治（あわら市エコ市民会議）、山本 宣春（あわら市エコ市民会議）、出口 美貴和（NPO 法人グリーンウェル 代表）、竹田 直行（北潟湖ハクチョウを見守る会）、大西 五十二（北潟湖生きもの応援隊）、辻下 義雄（北潟漁業協同組合 組合長）、木戸 俊昭（北潟漁業協同組合）、長谷川 吉弘（芦原北潟土地改良区 理事長）、末富 攻（吉崎地区 区会長）、北浦 博憲（北潟東区 区長）、長谷川 正芳（赤尾区長）、松本 昇（富津区 区長）、川崎 進（北潟西区 副区长）、佐々木 繁一（福井県土地改良事業団体連合会 課長）、竹内 利道（福井県立芦原青年の家 所長）、米由 誠（あわら市観光協会 局長）、番匠 裕美子（北潟小学校校長）、堀江 好美（あわら市収納推進課課長）、関 章人（北潟歴史探訪の会会長）、古橋 照夫（北潟歴史探訪の会）

【一般】

五老 利作、芹沢 賀代、松田 千恵子、橋本 健二、野村 みゆき、大宮 正太郎、山 諭子、陶山 治宏、伊藤 勝幸、三上 健太郎、松井 利夫、田端 和英、野村 正

巳、江川 直美、近藤 邦憲、西正 真琴、望月 駿、清水 香那、古宅 幸久、三上 稔、鈴木 達郎、村上 哲彦、村上 裕子、藤田 由紀

【来賓】

佐々木 康男（あわら市長）、【植田 明浩（環境省自然環境局 自然環境計画課長） 随行：山本 康仁（環境省自然環境局 自然環境計画課 事業係長）】、酒向 貴子（環境省中部地方環境事務所 統括自然保護企画官 野生生物課長）、清水 英男（福井県安全環境部長）、笹岡 一彦（福井県議会議員）、森 之嗣（あわら市議会 議長）、八木 秀雄（あわら市議会 総務教育厚生常任委員長）

【報道関係】

北原 愛（日刊県民福井）、重森 昭博（福井新聞社）、長谷川 文彦（北國新聞社）

1 開会挨拶

北潟湖自然再生協議会設立総会の開催にあたり、北潟湖自然再生協議会準備会の青海会長より、以下の挨拶があった。

[青海会長（北潟湖自然再生協議会準備会）挨拶]

本日は、皆様にはお忙しい中、設立総会にお集まりいただき、お礼申し上げます。また、あわら市長をはじめ県や環境省の皆様にご出席いただき、お礼申し上げます。

北潟湖では、平成 25 年度から本日に至るまで、様々な活動をしてきた。平成 26 年度に設立された「北潟湖の自然再生に関する協議会」では、住民へのアンケート調査や、北潟湖フォーラム、調査、研究、成果の報告会等、北潟湖の自然再生の可能性を探ってきた。また、地域の皆様を中心とした、自然観察や環境教育が進められてきた。それらの成果を踏まえつつ、本日の設立総会を迎えたところである。

しかし、本協議会の設立は、さらに広範囲で積極的な活動への第一歩に過ぎない。この地域でも高齢化が急速に進み、人々の暮らし方や自然への接し方も変化している。未来の世代へ、豊かな自然環境、文化を継承し、地域の活力を高めていくことが、現在の私たちの世代の責務である。本協議会では、様々な立場の方々が議論し、調整して目標を設定して活動が進められていくことになる。さらに豊かな未来を創造するために、地域の方々が元気になっていくことが、協議会設立の意味ではないか。

皆様の力を合わせ、地域を豊かにし、未来につなげていくため、今後とも皆様のご協力をいただきたい。

2 来賓挨拶

北潟湖自然再生協議会設立総会の開催にあたり、あわら市長の佐々木康夫氏、福井県安

全環境部長の清水英男氏、環境省 中部地方環境事務所 総括自然保護企画官・野生生物課長の酒向貴子氏より、以下の来賓挨拶があった。

[佐々木市長挨拶]

秋も一段と深まり、冬の足音もすそ野まで迫っている。北潟湖でも来月には冬の風物詩である寒ブナ漁が解禁となる。

本日は、「北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう」をテーマとする第5回北潟湖フォーラムに合わせ、北潟湖自然再生協議会の設立総会が多くの市民や関係者のみなさまのご参加により、盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。自然再生推進法に基づき、法定協議会が設立されることは、全国で26番目、県内では三方五湖に続いて2番目となり、大変意味深いものと伺っている。

当地では、平成25年度には北潟湖自然再生連絡会、翌年には法定協議会の前身となる「北潟湖の自然再生に関する協議会」が設立された。5年の歳月を経て、地元の環境保全団体、市民、漁業者、農業者、研究者、県、市等が協働して、北潟湖の自然を取り戻すための調査、活動を継続して進めていただいております。敬意と感謝を申し上げます。

北潟湖は、日本の重要湿地500に選定されている生態系多様な湿地であり、自然豊かで風光明媚な景勝地として全国に誇ることができる本市の観光資源の一つである。白い風車や真っ赤なアイリスブリッジを背景に、春には湖岸のサクラ、夏には花菖蒲、秋には湖に映えるモミジ、冬にはマガモやミサゴ等の野鳥の飛来があり、四季を通じて景観を楽しむことができる。その他にも、ウナギ、コイ、フナ等湖の恵みや坂井北部丘陵地の富津金時、メロンやスイカ等の大地の恵みを堪能し、カヌーや乗馬等スポーツを親しむこともできる。福井しあわせ元気大会では、カヌースプリント競技の会場として、全国から選手や関係者でにぎわい、記憶に残る素晴らしい大会となった。また、あわらカップカヌーポロ大会の常設会場としての大きな役割を果たしている。自然環境を保全、再生し、地域資源として活用しながら、次の世代へ継承することは、私達の責務である。法定協議会の設置により取組が進められていくことを大いに期待している。

本年度は、あわら市・紹興市友好都市締結35周年であり、中国の紹興市を訪れた。紹興市には、東湖がある。湖に関する環境問題がいろいろあるが、発展と市民の憩いの場の創造のため、一生懸命取り組まれているということだ。紹興市の取組を取り入れることで、北潟湖の魅力を深めることができるのではないかと。

本日の北潟湖フォーラム、設立総会の開催にご尽力賜りました青海会長をはじめ、関係者の皆様には厚く御礼を申し上げますとともに、ご参加された皆様のますますのご健勝を祈念申し上げます。

[清水部長挨拶]

この度、北潟湖自然再生協議会設立の運びとなること、心からお祝い申し上げます。

北潟湖は、県内では3番目に大きな湖である。北潟湖は、越前加賀海岸国定公園の一部に指定されており、貴重な動植物が生息、生育していることから、生物多様性保全上重要な湿地である。

一方で、北潟湖の水質問題や湖岸整備による生きものの減少、外来種問題等の課題もある。県では、平成25年度から里山里海湖研究所による調査研究、自然保護センターによる外来生物の駆除事業等、自然再生協議会設立に向けた様々な取組を支援してきた。本年度3月、県では環境基本計画を改定し、研究者や地元活動団体等、多様な主体が協働した北潟湖における自然再生活動を重要な例と位置付けた。本日の自然再生協議会設立により、あわら市が一丸となって進める自然再生事業を県として一層支援したい。

本協議会の活動が実を結び、自然豊かで皆様が憩い集う北潟湖になるとともに、本協議会に参加する皆様のますますのご健勝、ご発展を祈念申し上げます。

[酒向総括自然保護企画官挨拶]

本日は多くの皆様のご参加と、北潟湖自然再生協議会の設立総会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、日頃より、自然再生活動に関して皆様のご協力を頂いたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

自然環境は、人間の生活にとってかけがえのない基盤である。また、社会や文化、レクリエーション等、人間の生活にとって大切なものである。しかし、自然の再生能力を超える過度な利用により、多くの自然が失われている。全国各地で、自然環境の価値を再認識し、損なわれた自然を積極的に取り戻す自然再生が取り組まれている。

北潟湖には美しい自然景観があるが、水質の悪化や外来種の増加、水辺の生きものの減少等も懸念されている。これらに対応するため、本日に至るまで、専門家の協力を得ながら、地域の人達、NPO、行政、様々な機関が一体となって取り組みを進められてきたと伺っている。一度失われた自然を取り戻すには、相当な労力と時間を要する。皆様の工夫や知識を活かした並々ならぬ努力に、敬意を表する。北潟湖自然再生協議会の設立により、更なる自然再生事業の活発な取組が進められることを環境省として嬉しく思う。

今後、本協議会が中心となって北潟湖の素晴らしい自然環境再生に向けた取組がますます活発となり、人と自然が共生する地域づくりが実現することを期待している。本協議会の今後の発展を祈念申し上げます。

3 設立趣旨の説明

設立総会の議事進行にあたり、議長の選出があった。議長には、事務局より北潟東区長北浦 博憲氏を推薦したい旨説明があり、満場一致で承認された。

続けて、北潟湖自然再生協議会設立趣旨について、事務局より説明があった。

設立趣旨の文案について、質疑・意見は無く満場一致で承認された。

4 規約の承認

北潟湖自然再生協議会規約（案）について、事務局より説明があった。
協議会規約案について、質疑・意見は無く満場一致で承認された。

5 役員を選出

規約に基づき、北潟湖自然再生協議会の役員（会長 1 名、副会長 2 名）の選出があった。
役員を選出については、事務局より会長として青海 忠久氏、副会長として組頭 五十夫氏、
佐賀 繁次氏を推薦したい旨説明があり、満場一致で承認された。

続けて、選出された会長、副会長を代表し、青海会長から以下の挨拶があった。

[青海会長（北潟湖自然再生協議会）挨拶]

北潟湖の自然再生について、皆様のこれまでのご協力に感謝し、これからはますます活
発な活動にしたい。

今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

6 報告・協議

6.1 北潟湖自然再生協議会全体構想（経過報告）

北潟湖自然再生協議会全体構想の途中経過について、事務局より説明があった。
説明内容について、出席者からの質疑・意見は無かった。

6.2 平成 30 年度活動計画

平成 30 年度活動計画について、事務局より説明があった。
説明内容について、出席者からの質疑・意見は無かった。

7 閉会

(以上)